

山行報告



■六甲ロックガーデンから一軒茶屋(初めての山歩き教室)

- 日 程：7月12日(日)
- サポート：La 砂川(延) SLa 垣内 木村 Lb 須増 SLb 藤本
- 参加者：La 山本(正) SLa 尾越 大谷 河合 小山 田羅間(勤) 田羅間(易)
中村 野村 峯山 宮崎 村上 森下 植濃(一般参加)
：Lb 尾内 SLb 和田 香川 瀧原 田中(重) 田中(由) 田中(良)
田原 土屋 平井(正) 平井(み) 平石 福原 舛賀
：教室生16名

行動記録

場 所	着	発
芦屋川駅		9:26
高座の滝	9:53	
風吹き岩	11:02	11:07
雨ヶ峠	12:12	12:40
東お多福山	13:00	13:03
土樋割峠	13:17	13:22
一軒茶屋	14:20	15:07
石の宝殿	15:20	
土樋割峠	16:00	16:06
東お多福山バス停	16:28	16:36

◆◆六甲・ロックガーデンから一軒茶屋 野村

初めて六甲山を頂上まで登ったのは「初めての山歩き教室」でした。それまで六甲山はドライブを楽しむ山、ケーブルカー・ロープウェイで登る山としか思っていなかった。

教室で経験した炎天下での六甲山の標高差、約900mの厳しさに加え「こむら返り」を経験した辛さと、相反して味わった達成感と満足

感を思い出す。

同じ時期に同じコースを歩く事で現状の体力が確認できるから、例年夏山のトレーニングとして参加しています。

六甲山は幕末に開港した神戸の街の面影を残す異人館、ローマ字の登山道や名所があり何故か他の山とは違う楽しみを感じる。この山行ルートは芦屋ロックガーデンもロック・クライミングのゲレンデであり日本のロック・クライミングの発祥地として知られています。ロックガーデンの命名者は、日本のロック・クライミングのパイオニア的存在である藤木九三だそうです。登山口からすぐの「高座の滝」の左の岩に藤木九三のレリーフが嵌め込まれています。

ロックガーデン登山道は古くからクライミングとして利用された一部が道となり整備され今の登山道になったようだ。

高座の滝を過ぎてからロックガーデン・風吹岩で眺望を楽しみ、雨ヶ峠で昼食、東お多福山のスキの保護地がある笹の草原から六甲山頂のアンテナを眺めて土樋割峠に下り、谷川の冷たい水で汗を流して、一息ついてからが本日のメインイベントである目的地の一軒茶屋まで(標高差200m)黒岩谷西尾根道を約1時間かけて登り切る。

快い疲れと達成感を味わい一軒茶屋で教室のグループとの時間調整で50分程の休憩を取っ

てから「石の宝殿」に向かって出発する。

しかし例年このコースには魔物が居るのか、一軒茶屋で休憩して「石の宝殿」の鳥居をくぐった辺りでこむら返りになる。入会2年目の時も同じ場所でこむら返りになり、さらに筋力不足が原因か腰まで痛くなった。その時は塩分補給をして改善したが、去年も同じ症状を起こしそうになったので常備薬の「漢方68番」を飲んで凌いだ。

「初めての山歩き教室」の先輩に一軒茶屋で「氷」を食べると冷えて、こむら返りになり易いからスポーツ飲料か塩を飲むようにと教わったが、「氷」を食べなくても同じ場所で同じようにこむら返りを起こす。私だけでなく何人か同じ場所で足がつるらしい。今年は何故か大丈夫だったが、他に原因が有る様な気がして決して塩分不足と体力不足だけの問題ではなく、一軒茶屋の休憩が長すぎて体が冷えた時に、長い下り坂から「石の宝殿」の急な上り坂で疲労した筋肉が痙攣するのが原因だと思います。何故かという、今年の教室受講者のNさんが、せっかく六甲頂上に来たから山頂に行こうと言ったので一軒茶屋の休憩時に一緒に頂上(931m)まで登ったからです。この登りがウォーミングUPになり足が温まった結果、こむら返りにならなかった様に思うのです。

この教室山行では一軒茶屋まで来ても六甲頂上には登らない行程ですが、来年からは初めて山頂まで来た受講生の為にも「六甲山頂を目指す山行」にしたら良いと思いました。

来年も体力持続を目指し、夏山トレーニングを兼ねてのこの山行に参加したいと思います。

そして「石の宝殿」では全員が「こむら返り」しない事を願っています。

これが私のこのコース4回目参加の感想です。



◆◆六甲ロックガーデンから一軒茶屋

福原

今回の山行1週間前、台風3つが同時に発生しました。これは梅雨時としては13年ぶりとのこと。山行前から天気だけを心配していましたが、当日は、その心配も杞憂に終わり、朝から晴天、絶好の山登り日和となりました。しかしこの良すぎる天候が、仇に。

9時に阪急芦屋川駅前に集合、その後いつもの公園に場所を移し、ストレッチの後、いざ目指すは六甲一軒茶屋。が、歩き出した途端、この晴天と台風接近による湿度の高さから、登山道に入る前、芦屋の高級住宅街を抜けるまでに大量の汗が噴き出してきました。この日はハイカーも多く、登山道は大行列、ただ、そのスローペースのおかげもあり、暑さほど疲れは感じませんでした。道中、木々の切れ間からは港町神戸の街並みが見えます。都会のすぐ傍にこうした自然が広がっている、改めて兵庫の良さを実感しました。

12時過ぎ雨ヶ峠にてお昼休憩。ここからは多くのハイカーが七曲りから山頂を目指すのか、東お多福山コースはぐっと登山客が減ります。このあたりから、雲も出始め、風も出てきたことから、ようやく登りやすくなってきました。

土樋割峠の沢にて最後の休憩。清流で顔を洗うと、最後の難所に向けて、スイッチが入ります。

あとひと踏ん張り自分と言い聞かせながら、何回も踏ん張りかえして、ようやく一軒茶屋に到着。帰路、お腹を壊さないように、かき氷の誘惑をぐっところえ、代わりに缶コーヒーで一服。やはり頂上に着いた時の達成感は何回目でもいいものですね。

仕事やなんだかんで、なかなか山行には参加できないのですが、この達成感を味わうため、また山に登りたいと思います。

今回六甲山は「初めての山登り教室」以来通算3回目。登る度に余裕が出てきているように感じます。毎回最後に会長より、三宮のZAKOBAのお誘いがあり、今年こそ念願のZAKOBAに行こうと思っていましたが、生憎翌朝から仕事のため断念しました。

次回への持越しということで、来年はぜひZAKOBAの宴会にも参加したいと思います。

集合時リーダーから小まめに水分補給をするよう指示があったおかげで、全国的にも猛暑日を記録しているところが多い天候の中、熱中症になることなく、無事下山することが出来ました。

ロックガーデンの途中、熱中症になったハイカーもいたようで、救助ヘリが出動していたことを思えば、この時期の登山は、より体調に気を付ける必要があると再認識できる山行になったと思います。



■白山三ノ峰(初めての山歩き教室)



- 日 程：7月18日(土)～20(月・祝)
- サポート：L砂川(延) L須増 SL垣内 SL藤本 田中(重)
- 参加者：教室生12名
- 行動記録：JR加古川駅北ロータリー8:30 発一姫路駅じばさんびる前
(18日) 9:02 発一山陽自動車道 権現PA(9:26着)9:40 発一舞鶴若狭自動車道・若狭美浜IC11:56一日本海さかな街(昼食・12:03着)13:00 発一北陸自動車道・福井IC13:42一ショッピングモールVio(大野市 買い物・14:12着)14:57 発一小池公園キャンプ場(15:50着)
(19日) 小池公園キャンプ場6:20 発～登山口(6:45着)6:50 発～山腰邸跡(7:08着)7:15 発～六本檜(8:20着)8:30 発～剣ヶ岩(9:32着)9:42 発～三ノ峰避難小屋(11:30着)11:50 発～三ノ峰頂上(12:05着)12:10 発～三ノ峰避難小屋(12:20着)12:30 発～剣ヶ岩(13:57着)14:07 発～六本檜(14:55着)15:05 発～山腰邸跡(16:04着)16:10 発～登山(16:30着)16:35 発～小池公園キャンプ場(17:00着)

◆◆感謝

島谷

鳥のさえずり、マイナスイオンたっぷりの森のかおり、木々をぬけると頬をやさしくなでる風、目の前は一面のお花畑と晴れ渡る青い空、迫る峰々、そして遠くの、いずれは登りたい山々・・・を想像して出発したはずでした。剣ヶ岩を過ぎたあたりから、合羽がなくては歩けないぐらいの雨足になり、買い替えたばかりの新品ゴアテックスの出番となりました。「なんぼ降っても大丈夫だよ」と勝者の気分で天を仰ぎ見るもつかの間で、台風の大雨でぬかるみ、さらに、止まぬ雨で泥んこ率の増した足元をひたすら見つめての登山となりました。

泥が靴にまとわりつき、かといって、石も木の根も踏みつけたらどんな結果になるか怖く、ただただ無言で一歩一歩進みました。

途中、何人もの人がすべったり転んだりして、私も下山時に回転着地を体験しました。熊笹の上で、ザックに身を守られながらクルッと、それはそれは上手に転べたようです。自分ではその様子がわからず、回転したような気がする程度だったのですが、後から他の方に聞くと笑い話になるような回転技だったようです。

座学でお世話をいただいていた時は、会長を「砂川さん」とよんでいました。練習を重ねるにつれて、スタッフさんと同じように「会長」とよび、山では「隊長」となりました。

普段言い慣れない「隊長」、これも貴重な体験でした。



登山の醍醐味は、やはり雄大で美しい自然の景色、花、風、音、に多いです。今回はその多くが実現しませんでした。自然を操ることはできないのだから仕方ありません。でも登山の目的はまた別で、「目標地点まで出来れば行き着き、そして下りてくる」という目的は達成できました。満足です。

道路まで下ったところで、B班リーダーの砂川隊長が「よく頑張りました」と握手で迎えてくださいました。

そう、私達は頑張りました。高御位山遊会の方々が入会時に頑張られたと同じように出来ました。嬉しいです。

座学、実習、終了登山で多くのスタッフの方々にお世話をいただきました。学生時代のクラブ活動さながらに、損得のないお世話をいただきました。4ヶ月前この教室に一人で思い切って申し込み不安なスタートでしたが、スタッフさんは温かく迎えてくださいました。山でも声をかけられ心丈夫でした。六甲山では明るい先輩達の様子をみて、「入会したら、あんな風に山に登る仲間に入れてもらえる」と安心しました。また、教室生の方々とも仲間になれました。

皆様に感謝申し上げます。新しい出発をご準備いただき、ありがとうございました。



■運営委員練成山行(白馬岳～朝日岳～蓮華温泉)

- 山行日：7月24日(金・夜発)～28日(火)
- 参加者：L砂川(延) SL山本(正) 尾内 瀬尾 荘所 平井(正)
待場 三木(悦) 和田
- 行動記録：

25日(土)：長野駅(6:15着)8:05発バスー白馬駅(9:10着)9:15発タクシーー猿倉荘(9:45着)10:00発～白馬尻小屋(11:30着)11:45発～大雪溪手前(12:10着・アイゼン装着)～岩室跡・葱平15:00発～白馬岳頂上宿舎前17:30～白馬山荘(18:00着)

26日(日)：白馬山荘発5:00～白馬岳(5:20着)5:25発～白馬山荘(5:40着)(強風の為、引き返し再度出発)白馬山荘5:50発～白馬岳(6:15着)6:20発～三国境(7:15着・コーヒータム)7:45発～鉢ヶ岳下(8:40着・休憩)8:50発～雪倉避難小屋(9:45着)10:00発～ピーク手前(10:50着)11:00発～雪倉岳(11:12着)11:30発～水平道分岐(通行止め)12:45～休憩(13:00着)13:15発～水汲み場(14:00着)14:10発～朝日中腹(15:15着・休憩)15:25発～朝日岳(16:42着)16:55発～朝日小屋(18:00着)

27日(月)：朝日小屋6:00発～休憩(7:20着)7:30発～吹き上げのコル(8:07着)8:15発～五輪の森(9:03着)9:20発～五輪高原(10:20着)10:30発～花園三角点(11:10着)11:20～白高地沢出合(12:55着・昼食)13:30発～休憩(14:25着)14:35発～小休憩15:43～兵馬ノ平16:00発～休憩(16:22着)16:30発～蓮華温泉ロッジ(17:15着)

◆◆3日間ともきつかったな

和田

24日は梅田から夜行バスの行程である。3列シートでゆったり座れるバスである。しかも車内にトイレがついていて、私のシートの前に下に降りる階段がついている。客室より下に降りて用足しとは、なんか狭い薄暗い場所を想像してしまう。翌朝6時過ぎに長野駅に着いた。

駅は新幹線も停まる真新しい駅である。喫茶店で軽食を摂り、バス、タクシーを乗り継いで猿倉登山口に到着した。皆でストレッチをし、さあ登山開始である。

今日25日、天気は晴れ。白馬尻小屋まで1時間!と会長。白馬尻迄でペットボトル1本の水を飲んでしまった。持ってきたむすびを食べ、昼の腹ごしらえも済ました。大雪溪までもう少し歩き、そこでアイゼン、ヘルメットを装着した。

雪溪に踏み出す前に、リーダーから次の指示がでた。「ここでは落石が多い。もし落石に打たれた時、一度に複数の者が被害に遭わないようメンバーは前後2m程度あけること。落石を監視するため、右の沢からの落石監視担当、左の沢からの落石監視担当を各2名指名され、落石が落ちてきたら“ラク”と言って知らせること。」私は右沢監視担当になった。少し緊張して上りはじめた。確かに雪の上には大小の石ころが散在している。



中ぐらいまで上った辺りから、時々ガラガラガラと崩落の乾いた音がするようになった。

大抵は雪溪の手前で止まるが、時に雪溪のなかまで飛びはねながら落ちる石もある。これを見ると、これは怖いと実感する。

途中で一人がしんどくなってきた。リーダーから、「私達には先に行き、小屋に泊まりの手続きをしておくように」と言われ、先行することにした。上に登るにつれて、ガラガラ音が頻発しだした。

一度、やや下方で音がし、それは、見ると右沢からの崩落で、そのうちの2個の石がものすごい勢いで落ち、雪溪の上に落ちていった。“落石やでー、おおーい、落石やでー”と叫んだ。

幸いにも雪溪に入ってちょっとしたら停まった。おお怖ーっ！

大雪溪は無事登りつめた。ここから岩稜帯が有り、その向こうに小雪溪が有るはずである。

この時点で、私達のグループは女性3人男性1人の小グループになっていた。後のメンバーが追い付くのをしばらく待っていた。少しすると、山本SLグループの3人の姿が見えた。



それを見て私達は歩きはじめた。ここへきて、私は3人の女性から遅れだした。

小雪溪を横切ってアイゼンを外した時点からいよいよ足を運ぶのが辛くなってきた。村営頂上宿舎まで来た時はもう一歩を出すのがしんどいというほどだった。

一服して白馬山荘へ向かいだして直ぐ、女性3人に、とてもついていけないので先に行って宿泊手続きをしてもらおうよう頼んだ。私はだいぶ遅れて山荘へ着いた。

私達より遅れていたメンバーも更に遅れて到着した。

登山2日目(26日)は白馬山荘から雪倉岳、そして朝日小屋までの行程である。天気はよいが、白馬岳の上は台風並みの風が吹いていた。今日も私は朝日岳の登りでブレーキである。

振り返ると白馬岳からの尾根筋がきれいに見える。小屋に着いたのは夕方6時である。女小屋主はシャキシャキした人で、「もっと早く到着するように」と、会長に苦情があったそうである。

3日目(27日)は蓮華温泉までである。前日に朝日小屋主から、「蓮華温泉迄の行程は、白馬から朝日小屋までの行程と同程度の行程だから27日は早立ちしなさい」と、助言があったそうである。朝日岳を越えると比較的歩きやすい平坦な道で、山野草の話をしながら歩けた。

五輪高原での水場で冷たい水を飲んだが、これは最高に旨かった。昨日に比べると今日はスピードアップしているのが判る。もしかか坂を走り下り、白高地沢から瀬戸川出合い迄も早く歩いた。これもけっこうきついなと思っていたが、ここからが試練だった。兵馬の平までの200mの登り、そこから蓮華温泉迄の100mの登りを、急登ではないが延々と果てしなく歩く思いだった。私はここでもブレーキを掛けだした。ロッジ到着は5時過ぎだった。

昨日よりは少し早かった。朝日小屋から直前に出発した他のパーティーが、「前日遅かった方々ですね」と、庭でむかえてくれた。しんどかったが、兵馬の平の沼地の花園はきれいだったと記憶に残った。

この夕方はビールがうまかった。明日は帰るのみである。



■北アルプス 立山～薬師岳～折立縦走

- 山 行 日：8月2日(日)～6日(木)
- 参 加 者：L上田 SL垣内 大谷 佐々木 田羅間(易) 村上

◆◆立山室堂から五色ヶ原へ

大谷

- 行 動 記 録：3日(月)

立山駅ーケーブルー美女平ーバスー立山室堂 8:25～一ノ越山荘(9:25 着) 9:40
発～龍王岳西(10:10 着)10:20 発～獅子岳(12:25 着)12:35 発～ザラ峠(13:35
着)13:45 発～五色ヶ原山荘泊(14:35 着)

立山、室堂と聞くだけでなんとなく憧れていたところ！
エスケープルート無し、気合いを入れて臨むが少し体が重い。でもお天気はとても良い。
室堂から石をコンクリートで固めた道をゆるやかに登って行くのだが、思っていたよりしんどい！1時間程で一ノ越山荘に着くと、割合多くの人々が登っていた。

私達が龍王岳に向かい始めた時、下から中学生らしき集団が父兄と一緒に登って来るのが見えた。Mさんの話によると、学校の恒例行事で雄山に登るらしい！

龍王岳、獅子岳と歩いて行くと、残雪が残っているせいなのか少し風が冷たく感じる。
今回、体が重かったので一生懸命足元ばかり見て歩き、あまり景色を見る余裕がなかった。
ザラ峠を過ぎて五色ヶ原に入り木道を行くと、五色ヶ原山荘が見えて来てもう少しというところで、雨が降って来て雨具をつけた。

山荘に着くと思いがけないことにお風呂に入れ、疲れていたのもとても助かりました。

◆◆越中沢乗越からスゴ乗越小屋へ

村上

- 行 動 記 録：4日(火)

五色ヶ原山荘 5:40～鳶山(6:25 着)6:40 発～越中沢乗越(7:20 着)7:40 発～越中沢岳
(8:40 着)9:15 発～スゴの頭(11:00 着)11:20 発～スゴ乗越(12:10 着)12:25 発～ス
ゴ乗越小屋泊(13:25 着)

高山の花々が咲き乱れる天上の楽園の様な五色ヶ原の木道を、朝日を浴びながら進み、一気に登り、鳶山(2616m)へ。頂上からは遠く槍ヶ岳・笠ヶ岳・北アルプスの山々が美しい。明日めざす薬師岳も見える。一息ついて急な下りを降り鞍部から越中沢岳の花が美しく咲く稜線を登る。北からの冷たい風が疲れた体に心地よい。越中沢岳(2591m)頂上ではゆっくりとコーヒータイム。晴天の山頂での至福の一時でした。下りは岩の急坂で今日一番の緊張の連続でした。スゴの頭まで登り返し登山道は唐松の樹林帯から笹の群生地へ。スゴ乗越の急な下りを過ぎ、登りだした途中にスゴ乗越小屋がありました。13時25分到着です。

◆◆薬師岳に登頂、雷鳥に迎えらる

田羅間

- 行動記録：5日(水)

スゴ乗越小屋 5:10～間山(6:40着)6:50発～北薬師岳(9:05着)9:20発～薬師岳(10:40着)11:00発～薬師岳山荘(11:40着)12:00発～薬師峠(13:20着)13:40発～太郎平小屋泊(14:00着)

スゴ乗越小屋を出て、少し行った広い場所でストレッチをする。間山に向け登って行く。

30分ほど登ったところで若い美人の彼女、小屋に忘れ物とかで戻って行く(その後すぐに何でもない顔で私たちに追いつき、追い越して行く。若いっていいなあ！)

間山から北薬師岳、薬師岳に向かうが、左にきれ落ちた深い谷横の細い道や岩、岩、岩の積み重なった所を越して行く。ひたすら前の人的一步、一步を見つめて登る。と突然ガレ場の上に北薬師岳の山頂が現れる。そこから見る薬師岳、はるかかなたに高くそびえる。気を取り直して一步また一步と歩を進め岩場を上り下りしてやっと着く。社の中に祀られた薬師如来様を拝み、ここまで来られたことを感謝して残りの安全を祈願する。

薬師岳山荘に下る途中で雷鳥と出会う。それもほんの少し離れたところで、しかも親鳥は砂あびまで見せてくれた。砂の中でバタバタ回転するなど初めて見る所作に驚く。

太郎平小屋へと向かうが、山の上から見たときすぐ近くに見えたのに行けども行けども着かず、しかも沢を大下りする。始めは水がなかったが徐々に水が流れ、すべりやすい岩やゴロゴロの道に気を付けながら下る。やっと薬師峠のテント場につく。

でもそこから急な登り。前の人足元だけを見て登る。やっとのことで小屋に着く。安心と充実感でいっぱいになり、みんなで、ビールで乾杯！



◆◆猛暑の下界めざして 太郎平小屋から折立へ

佐々木

- 行動記録6日(木)：太郎平小屋 5:50 発～五光岩ベンチ(6:30着)6:40 発～三角点 7:50～折立 9:15

満天の星空の夜が明けて、8月6日、本日の朝食は予備食のカップラーメン。

5:50 太郎平小屋を下界に向けて出発する。背の低い笹と、チングルマの花の名残の間の木道を辿る。左手眼下に有峰湖、遠方に白山(?)。右手に剣を眺めながら坦々と下る。

五光岩ベンチにて一服、三角点を通過した辺りから、登りの登山者に会うようになる。

樹林帯に入ると道は細くなり、登山者の増加につれ度々の通過待ちとなる。ウグイスの音が暑苦しいセミの声に変わり、通過待ちにイライラしながら9:15折立駐車場に到着。

予約しておいたジャンボタクシーに乗車。途中、運転手さんのご厚意で白樺ハイツで入浴、臭いはじめた衣類を着替え、生ビールで生き返る。運転手さんの“こきりこ節”を聴き、佐々成政の蒔蓄に耳を傾けながら富山駅に到着。モワツとした空気の中に降り立つ。

数時間前の山の空気を懐かしみつつ、富山を後にした。

■関西きっての花の名山 伊吹山(1,377m)に登る



- 山行日：8月4日(火)～5日(水)
- 参加者：L瀬尾 SL中村 宮崎 山本(清)
- 行動記録：
 - (4日) 近江長岡駅(16:39着)バス17:10発～伊吹山登山口(17:26着・民宿泊)
 - (5日) 伊吹山登山口5:00発～1合目(5:25着)5:35発～3合目(6:30着)6:45発～6合目(7:20着)7:30発～8合目8:10着8:20発～伊吹山山頂(8:50着)～高山植物園散策9:30発～8合目(10:00着)10:10発～6合目(10:45着)11:00発～5合目(11:10着)11:15発～2合目(12:00着)12:05発～伊吹山登山口(12:55着)

◆◆花の山に登る

山本

青春18切符で、JR宝殿駅に14時。

早朝から登り始めるための前泊という、いつもとは違うパターンに、ワクワク感は更に増す。

前泊というゆとりの時間。民宿での楽しい会話、山行のこと、日常のことなど教えてもらうことが一杯だ。

まだ明けきらない5時、登山口へ。早起きのセミの声援を受けながら林道を歩く。大きな石がゴロゴロと転がる急登で、足元は思いのほか厳しく、やわらかい日差しの下でもしたたり落ちる汗。時折出合える野の花に元気をもらいながら、ひたすら歩を進める。

3合目。初めて目にするユウスゲの群生。満開になる夕方のお花畑を見たいな。見渡す限りの稜線を覆うオオヨモギは圧巻。伊吹モグサの原料となるものだそうで、疲れた身体に「やいと(お灸)」をすえる家族の姿を怖々眺めていた幼いころのひとコマが浮かんだ。常に山頂と下界の風景が見えている登山道は富士山と似ている。

8合目。向かいの稜線で草を食む一頭のシカと、散歩中の2頭は親子かな。山頂の手前。登山者によって花が掘り取られたと思われる箇所が多くあった。目を覆いたくなる光景。花を愛でる心はどこにあるのだろう。

1377mの山頂は大パノラマとお花畑。ここは平地よりも10℃程度涼しいとのこと。売店の飲料は500mlが240円もする。でも、渴いた喉には命の水のように感じられた。

下山後、薬膳風呂へ。きょうも無事に山行ができた満足感で疲れも忘れる。

青春18切符で出発した4人の1。5日はあっという間に過ぎた。伊吹山で出会った多くの花を私の心にも咲かせて、夏を乗り切ろうと思う。大量の汗でさぞかしスリムになっただろうとまずは体重計へ・・・増えていた。





■六甲荒地山

- 山 行 日：8月9日(日)
- 参 加 者：La 須増 SL 清水 塩津 三木(勉)
- 行 動 記 録：芦屋川駅9：15 発～城山～鷹尾山～岩梯子(11：40 着)11:50 発
～荒地山(12：30 着)13：00 発～芦有ゲート～芦屋川駅(16：30 着)

◆◆六甲荒地山を登る

塩津

この時期、記録更新の猛暑日が続き、「この暑さの中を六甲山に登るなんて」と周りから言われ、ボッカより熱中症にだけはならないように、ただ無事歩き通せるようにと念じて芦屋川に向かった。

アレッ！駅前はずっと登山客でごったがえしているのに、この暑さの為か4～5分の1くらいだ。

やはり皆用心しているのかな？4人なので駅前で軽くストレッチをし、案内板に従って、鷹尾山登山道に入る。

高御位縦走時の様な暑さを覚悟していたが、森林の木陰の中の登山道が続き、1時間たらずで鷹尾山に到着。



小休止後、雑木林の中ではるか前方に見え隠れしだした荒地山に向かう。ゴロゴロ石の急登をせせせせと登っていくと、例の岩梯子が現れる。登る前に皆で記念写真を撮り、慎重に1歩1歩登る。次に現れたのは、「新七衛門ぐら」巨岩に囲まれた穴だ。ザックを先に放り出しくぐり抜ける。小柄な私は楽々だが、ふっくらした人は少々難儀だ。また次は、ロープは付いているが、小さなへこみのある大きな石をよじ登らねばならない。大きな人は良いが、手足が短いので躊躇していると、後ろからへこみに置く足をMさんが支えてくださった。

岩場を無事抜け頂上でゆっくり昼食をとる。するといつの間にかネコが・・・確か去年もみかけた。Mさんがおにぎりをあげる。街中の野良猫より美味しいものを食べているのだ。どうりで毛並みが良いはずだ。帰りは芦有ゲートを目指し快適な木陰の中を下る。ゲートを過ぎてから少々冒険気味の下山となる。阪急芦屋川方面と標識や矢印はあるのだが、行って見たら工事現場で行き止まりになっていて鉄柵をこじ開けくぐり抜けたり、鉄の門扉を乗り越えたり面白い経験をしました。マイナーなコースなのか余り整備されてないようだった。

(他にルートもあるようだ)最後は車道を行って駅へ・・・無事着いた駅前の喫茶店で美味しいアイスコーヒーを飲みホットする。変化に富んだ山行でした。皆様有難うございました！



■赤目四十八滝(女性委員会)

- 山 行 日：8月11日(火)
- 参 加 者：L尾内 SL田中(由) 有本 田中(美) 山本(清)

行 動 記 録

場 所	着	発
赤目滝バス停	10:10	10:30
千手滝	10:55	11:00
百畳滝	11:35	
雛壇滝	12:00	12:05
琵琶滝	12:07	
巖窟滝(昼食)	12:20	12:50
千手滝	13:40	13:48
対泉閣(入湯)	14:10	14:55
赤目滝バス停	15:00	15:15



◆◆涼を求めて滝を歩く

有本

猛暑が続く中、JR姫路駅より出発しました。近鉄赤目口に着いた頃には、カンカン照りで暑かったのですが、バスで赤目滝の入口に着くと、気温も少し低くひんやりしていました。

滝を見ながら、涼を求めて歩く山行でしたので、涼しさを感じながら歩き始め、一番目の行者の滝に着きました。四十八滝があるのか、よくわかりませんが、滝を見ながら、木立の中を歩き景色もよく癒されます。もともと滝が好きな私は満喫し、大満足です。

最終の滝、巖窟滝で昼食、暫しの休憩をして折り返しました。いつもの山行よりも涼しく、汗の掻き方も少しで比較的楽でした。夏休みと言うこともあって、子供たちが楽しそうに水遊びをして、にぎわっていました。

今回は5人と少人数で、和気あいあいとおしゃべりしながら楽しい山行となりました。

又、電車で長い道中でしたが、おしゃべりに花を咲かせとても楽しい一日を過ごす事が出来ました。企画されたリーダーさん、皆さん、ありがとうございました。